

## 第 3 章

---

### 湯浅町の文化遺産の概要

# 第3章 湯浅町の文化遺産の概要

## 1. 指定等文化財の状況

湯浅町に所在する文化財のうち、文化財保護法に基づく指定等文化財は、令和3年（2021）4月1日現在で、国が指定する文化財が9件、登録有形文化財（建造物）が4件、そして和歌山県唯一の選定を受けている伝統的建造物群が1地区となっている。なお、令和3年3月26日には、新たに湯浅城跡が「湯浅党城館跡」の一部として史跡に新規指定された。国指定文化財に限れば、明治37年（1904）の施無畏寺所蔵の古文書、大正6年（1917）、大正15年（1926）に指定された勝楽寺所蔵の5件の彫刻、昭和6年（1931）の明恵紀州遺跡率都婆そつとばの史跡指定に次ぐ、90年ぶりの新規指定ということになる。登録有形文化財（建造物）は、2カ所4件の登録にとどまっている。

和歌山県文化財保護条例に基づく県指定文化財は18件、湯浅町文化財保護条例に基づく町指定文化財は46件である。県指定文化財については、施無畏寺所蔵の文化財や熊野古道関連史跡の指定が進んでいる。町指定をみると、平成8年（1996）から平成10年（1998）にかけて、新規指定が進められた。寺社建築や施無畏寺所蔵文化財が中心であり、醤油醸造用具（1点ずつ指定、14件）や石造物の指定が特徴としてあげられる。

【指定等文化財件数表】

区分 / 種別		国			県		計	
		指定	選定	登録	指定	指定		
有形文化財	建造物	-	-	4	4	11	19	
	美術工芸品	彫刻	5	-	-	2	6	13
		絵画	-	-	-	-	1	1
		典籍	-	-	-	1	5	6
		歴史資料	-	-	-	-	1	1
		工芸品	-	-	-	-	2	2
		古文書	2	-	-	3	1	6
		書跡	-	-	-	1	-	1
		考古資料	-	-	-	-	3	3
	無形文化財	-	-	-	-	-	0	
民俗文化財	有形民俗	-	-	-	-	14	14	
	無形民俗	-	-	-	1	1	2	
記念物	遺跡（史跡）	2	-	-	6	1	9	
	名勝地（名勝）	-	-	-	-	-	0	
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	-	-	-	-	-	0	
文化的景観		-	-	-	-	-	0	
伝統的建造物群保存地区		-	1	-	-	-	1	
計		9	1	4	18	46	78	

### ①建造物

建造物分野の指定等文化財は、県指定4件、町指定11件の指定と、国登録が4件となっている。県指定となっているのは、施無畏寺と深専寺じんせんじの堂宇である。

施無畏寺では、本堂・開山堂・鐘楼・鎮守社の4棟と、墓所に所在する石造宝篋印塔が指定されている。このうち、施無畏寺の奥の院と呼ばれる場所に並ぶ4棟は、豊臣秀吉による紀州討伐の際に伽藍が灰燼に



写真10 極楽寺 表門

帰した後、江戸時代に入って17世紀から18世紀にかけて再建されたものである。室町時代の施無畏寺の様子を描いたとされる「施無畏寺境内絵図」（県指定文化財）には、これら4棟が現状と同じような配置で描かれており、再建時に元の伽藍を復興させた様子がうかがえる。

深専寺では、本堂と、惣門・庫裡及び玄関・書院が県指定を受けている。このうち本堂は、承応年間（1652～55）の大火で焼失した後、寛文3年（1663）に再建されたもので、県内で最も古い浄土宗建築である。

町指定となっているものは、深専寺の諸堂宇のほか、<sup>けんこく</sup>顯國神社の社殿（本殿・祝詞殿・拝殿）や旧栖原家住宅主屋などがある。和歌山県近世社寺建築緊急調査において、和歌山式架構と呼ばれる正面入側の架構を持つ本堂建築として位置付けされている、本勝寺本堂、真楽寺本堂、極楽寺本堂が指定されているほか、室町時代末期に遡ると思われる極楽寺表門（湯浅城北門を移築したとも伝わるが定かではない）等がある。

国の登録を受けているものは、湯浅小学校講堂と、栖原角兵衛屋敷（主屋・土蔵・土塀）の2カ所4件である。栖原角兵衛屋敷主屋は、棟札より寛政9年（1797）の建築とされ、同時期のものと思われる土蔵、土塀とともに、栖原に本宅を置き北方漁業の発展に大きく寄与した栖原角兵衛の偉業を伝えている。

## ②美術工芸品

彫刻では、国指定5件、県指定2件、町指定6件の指定文化財がある。国指定の5件はいずれも勝楽寺に伝わる平安後期から鎌倉時代にかけての木造仏像群である。平安時代後期のものと見られているのは、阿弥陀如来坐像、薬師如来坐像、四天王立像のうち持国天と増長天である。このうち、阿弥陀如来坐像は、定朝様式に則った洗練された作風で、中央の有力な仏師の手によるものと見られている。また、鎌倉時代に作られたとされる地藏菩薩坐像や釈迦如来坐像では、慶派仏師（※1）の特徴がみられる。これら一群の仏像群からは、当時この地に権勢を誇っていた湯浅党による、中央との繋がり、基に継続して行われていた造像活動の様子をうかがい知ることができる。県指定のうち、興福寺が所蔵する木造阿弥陀如来坐像は、12世紀末まで遡るとみられる仏像で、金銅仏と見まがうような硬い質感を持つ衣文が印象的である。町指定では、施無畏寺に伝わる彫刻の5件に加え、顯國神社手水鉢が指定されている。



写真11 興福寺 阿弥陀如来坐像

絵画の部門では、施無畏寺の文殊菩薩像の1件が町指定となっているのみである。

書跡・典籍・古文書では、施無畏寺に伝わる2件の古文書が国指定である。置文は、湯浅景基<sup>ゆあさかげもと</sup>が施無畏寺を建立し、明恵に寄進した際の手紙である。ここには、湯浅一族の連署が記されており、

※1 慶派仏師

慶派は、平安時代後期におこった仏師の一派。鎌倉時代初めに運慶、快慶など著名な仏師を輩出した。明恵による高山寺造営における造像では慶派仏師が重用されていることが明らかとなっており、有田地方における湯浅党の造像活動にも関与していたものと推察される。

当時の湯浅党の状況を示す資料として貴重である。施入状は、明恵の入滅後、湯浅景基の弟である幸応が、明恵の高弟であった高信より、明恵の肖像などを受けた際に添えられた書状である。県指定は、典籍1件、古文書3件、書跡1件で、いずれも施無畏寺の所蔵文化財である。町指定となっている典籍5件、

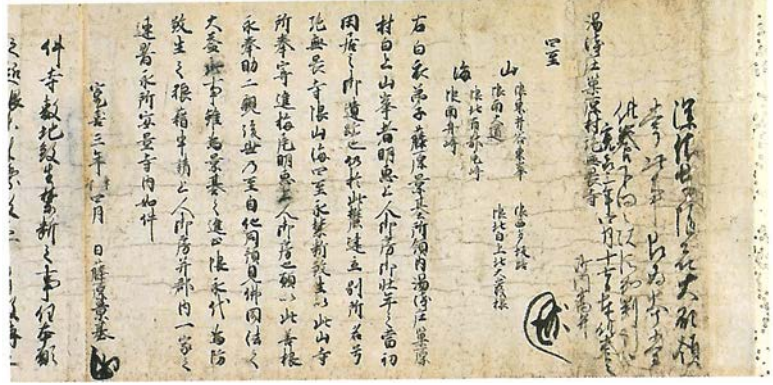


写真12 施無畏寺 紙本墨書置文

古文書1件もすべて施無畏寺に伝わるものであり、これらは、明恵と湯浅党、施無畏寺との関りを今に伝える豊富な文書資料としていずれも貴重なものである。

また、工芸品分野では、施無畏寺の2件が町指定となっている。さらに考古資料として、石造物である板碑、宝篋印塔、五輪塔が、歴史資料として深専寺に伝わる白樫氏関係資料が、それぞれ町指定になっている。このうち、白樫氏関係資料は、深専寺に伝わる白樫左衛門尉の肖像や位牌である。白樫左衛門尉は、室町時代末期に一時期、満願寺城（白樫城）を拠点に、豊臣秀吉の紀州征伐（※2）の際に内応して豊臣方についた人物である。

### ③民俗文化財

有形の民俗文化財としては、角長が所蔵する醤油醸造用具14件（各1点）が町指定文化財となっている。江戸時代末期から明治にかけての醤油醸造の様子を知ることのできる貴重な文化財である。角長には、そのほかにも醤油醸造用具や大福帳などの民俗資料が豊富に保存されており、私設の資料館である職人蔵や醤油資料館に展示されている。

無形民俗文化財は、顯國神社の三面獅子が県指定に、國津神社三面獅子舞が町指定にそれぞれ指定されている。三面獅子とは、オニとワニ、それに魔物である獅子が登場する、周辺地域で見られる形態の芸能で、それぞれに所作が異なるものである。顯國神社の三面獅子は、「紀伊国名所図会」にも描かれ、三面獅子の地域的特徴を研究する上でも貴重なものである。

### ④記念物

史跡の指定件数は、国指定2件、県指定6件、町指定1件となっている。明恵関連と熊野古道関連の史跡が主である。国指定史跡は、2件ともに複数市町にまたがるものである。1つは、有田市・湯浅町・有田川町に所在する7ヵ所の遺跡から構成される、明恵紀州遺跡率都婆である。明恵上人の修行地等の8つの遺跡に、明恵の没後、弟子の喜海等が木製の卒塔婆<sup>そとぼ</sup>を建立し、康永3年（1345）に石造の卒塔婆に改めたものであり、その時の卒塔婆が残存する7ヵ所が国指定史跡となっている。湯浅町には、施無畏寺の山中、白上峰にある西白上・東白上の遺跡が所在する。西白上は、明恵

※2 豊臣秀吉による紀州討伐

根来寺や雑賀衆、中小の国人衆が割拠する紀伊国は、反秀吉勢力が大半を占めていた。天正13年（1585）、秀吉方は大軍で紀州を攻め、これらの勢力の一掃を行った。この際、有田地方でも各地で戦火が上がり、有力な寺社は多くを焼失した。湯浅の白樫氏は、秀吉方に内応し周辺の勢力を攻め落とした。

が紀州に入って最初に草庵を結んで修行の地とした所であり、その後、さらに山中に移ったのが東白上である。もう1つは、令和3年(2021)3月26日に新たに指定された、湯浅党城館跡である。湯浅町と有田川町に所在する湯浅城跡と藤並館跡からなる。湯浅党城館跡は、平安時代末期から室町時代にかけて紀伊半島に広く勢力を持った湯浅党の城館跡である。豊富な古文書等の記録からその存在が知られていた中世武士団の活動の実態を知ることのできる遺跡であることが評価された。

県指定となっている6件は、熊野古道関連として4件の指定がある他、明恵上人遺跡 刈藻島(荊藻島)と、深専寺門前の「大地震津波心得の記」碑が指定されている。このうち、<sup>さかがわおうじ</sup>逆川王子は、<sup>いとがとうげ</sup>糸我峠を下りきった吉川の集落にある熊野九十九王子のひとつに数えられる王子社である。近世に大きく社地を減じていることがわかっているが、境内には享保19年(1734)の銘が入った石燈籠がある等、近世の王子社の姿を伝える史跡として貴重なものである。



写真13 荊藻島

町指定には、天保9年(1838)に建てられた道標がある。熊野古道が湯浅の街中を通り抜ける、その中間付近にあり、東方に高野街道が伸びる交差点に建てられた、高さ235cmの大型道標であり、近世の熊野古道(熊野街道)の繁栄ぶりを今に伝える史跡である。

### ⑤伝統的建造物群

16世紀末頃に開発され、醤油醸造を中心とした商工業都市として栄えた旧市街地のうち、明治後期から大正にかけて拡幅された御蔵町通りの北側の、東西400m、南北280m、面積約6.3haの範囲が、湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区として、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。保存計画では、伝統的建造物として140棟の建築物と51件の工作物、さらに5件の環境物件(令和3年4月現在)を特定し、保護措置をとっている。

地区内には、比較的まっすぐで広い「通り」と、その間を縦横に繋ぐ狭い「小路」によって構成される近世以降の地割がよく残され、近世から近代にかけて建築された様々な年代の建築物が存在している。本瓦葺の屋根や、漆喰を大壁で仕上げた壁などが重厚な雰囲気形成している。

## 【国指定文化財】

区分 / 種別	名称及び員数	所在地及び所有者	指定年月日		
有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1 躯	湯浅町別所 勝楽寺	大正6年(1917)4月5日
		木造薬師如来坐像	1 躯	湯浅町別所 勝楽寺	大正6年(1917)4月5日
		木造釈迦如来坐像	1 躯	湯浅町別所 勝楽寺	大正6年(1917)4月5日
		木造地藏菩薩坐像	1 躯	湯浅町別所 勝楽寺	大正6年(1917)4月5日
		木造四天王立像	4 躯	湯浅町別所 勝楽寺	大正15年(1926)4月9日
	古文書	紙本墨書施入状	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	明治37年(1904)8月29日
紙本墨書置文		1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	明治37年(1904)8月29日	
記念物	史跡	明恵紀州遺跡率都婆 (西白上遺跡・東白上遺跡)		湯浅町栖原 施無畏寺	昭和6年(1931)6月3日
		湯浅党城館跡(湯浅城跡)		湯浅町青木・山田	令和3年(2021)3月26日

## 【国選定文化財】

区分	名称	面積	区域	選定年月日
重要 伝統的建造物群 保存地区	湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区	約 6.3ha	湯浅町大字湯浅字北町、 字濱町、字中町及び 字鍛冶町の各一部	平成18年(2006)12月19日

## 【国登録文化財】

区分 / 種別	名称	所在地及び所有者	登録年月日	
有形文化財	建造物	湯浅小学校講堂	湯浅町湯浅 湯浅町	平成15年(2003)3月18日
		栖原角兵衛屋敷主屋	湯浅町栖原 個人	平成16年(2004)11月8日
		栖原角兵衛屋敷土蔵	湯浅町栖原 個人	平成16年(2004)11月8日
		栖原角兵衛屋敷土塀	湯浅町栖原 個人	平成16年(2004)11月8日

## 【県指定文化財】

区分 / 種別	名称及び員数	所在地及び所有者	指定年月日		
有形文化財	建造物	石造宝篋印塔	1 基	湯浅町栖原 施無畏寺	昭和53年(1978)8月18日
		施無畏寺 ・本堂 ・開山堂 ・鐘楼 ・鎮守社	4棟 (1棟) (1棟) (1棟) (1棟)	湯浅町栖原 施無畏寺	平成9年(1997)4月23日
		深専寺本堂	1 棟	湯浅町湯浅 深専寺	平成10年(1998)4月15日
		深専寺 ・惣門 ・庫裡及び玄関 ・書院	3棟 (1棟) (1棟) (1棟)	湯浅町湯浅 深専寺	平成21年(2009)3月17日
		彫刻	木造明恵上人坐像	1 躯	湯浅町栖原 施無畏寺
	木造阿弥陀如来坐像		1 躯	湯浅町青木 興福寺	平成17年(2005)5月31日
	典籍	貞元華嚴經	4帖	湯浅町栖原 施無畏寺	平成27年(2015)1月15日
	古文書	施無畏寺文書	37通	湯浅町栖原 施無畏寺	昭和53年(1978)8月18日
		崎山家文書	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	平成14年(2002)5月21日
		紙本淡彩施無畏寺境内絵図 附 紙本著色明恵上人五百五十回遠 忌開帳絵図	1幅 1枚	湯浅町栖原 施無畏寺	平成14年(2002)5月21日
	書跡	高山寺明恵上人行状	4冊	湯浅町栖原 施無畏寺	昭和53年(1978)8月18日
	記念物	史跡	深専寺「大地震津波心得の記」碑		湯浅町湯浅 深専寺
久米崎王子跡				湯浅町別所 顯國神社	昭和34年(1959)1月8日
明恵上人遺跡刈藻島				湯浅町栖原 湯浅町	昭和49年(1974)12月9日
逆川王子				湯浅町吉川 吉川区	平成21年(2009)3月17日
糸我峠				湯浅町吉川 湯浅町	平成23年(2011)3月15日
勝楽寺境内				湯浅町別所 勝楽寺	平成24年(2012)7月20日
民俗 文化財	無形民俗 文化財	顯國神社の三面獅子		湯浅町湯浅 顯國神社三面保存会	平成21年(2009)3月17日

## 【町指定文化財】

区分 / 種別	名称及び員数	所在地	指定年月日			
有形文化財	建造物	本勝寺本堂	1 棟	湯浅町湯浅 本勝寺	平成8年(1996)3月29日	
		石造宝篋印塔	1 基	湯浅町吉川 弥勒寺	平成8年(1996)3月29日	
		深専寺鐘楼	1 棟	湯浅町湯浅 深専寺	平成11年(1999)1月22日	
		深専寺観音堂	1 棟	湯浅町湯浅 深専寺	平成11年(1999)1月22日	
		深専寺地藏堂	1 棟	湯浅町湯浅 深専寺	平成11年(1999)1月22日	
		深専寺鎮守堂	1 棟	湯浅町湯浅 深専寺	平成11年(1999)1月22日	
		真楽寺本堂	1 棟	湯浅町湯浅 真楽寺	平成20年(2008)6月5日	
		極楽寺本堂	1 棟	湯浅町栖原 極楽寺	平成20年(2008)6月5日	
		極楽寺表門	1 棟	湯浅町栖原 極楽寺	平成20年(2008)6月5日	
		顯國神社 ・本殿 ・祝詞殿 ・拝殿	3 棟 (1 棟) (1 棟) (1 棟)	湯浅町湯浅 顯國神社	平成21年(2009)6月9日	
		旧栖原家住宅主屋	1 棟	湯浅町湯浅 湯浅町	平成30年(2018)3月9日	
		彫刻	大日如来坐像	1 軀	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日
	愛染明王坐像		1 軀	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	誕生釈迦仏		1 軀	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	春日明神立像		1 軀	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	住吉明神立像		1 軀	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	顯國神社手水鉢		1 軀	湯浅町湯浅 顯國神社	平成10年(1998)4月17日	
	絵画		文殊菩薩像	1 幅	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日
	典籍	紺紙金銀泥阿毗曇五法行經	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	平成8年(1996)3月29日	
		紙本墨書春日明神託宣記	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	平成8年(1996)3月29日	
		如来遺跡講式	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
		十六羅漢講式	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
		紀州所々遺跡	1 卷	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	歴史資料	白樫氏関係資料	2 点	湯浅町湯浅 深専寺	平成27年(2015)2月19日	
	工芸品	五鈷杵	1 基	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
		劍	1 口	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	古文書	明恵上人書状写	5 通	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	考古資料	石造板碑	1 基	湯浅町山田 證大寺	平成8年(1996)3月29日	
		宝篋印塔	1 基	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
		御墓堂跡中世墓石群	3 基	湯浅町栖原 施無畏寺	平成10年(1998)4月17日	
	記念物	史 跡	熊野街道道標	1 基	湯浅町湯浅 湯浅町	平成8年(1996)3月29日
	民俗文化財	有形民俗文化財	醤油醸造用具 甑	1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日
			醤油醸造用具 平釜	1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日
醤油醸造用具 ぶんじ			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 足踏式小麦割碎機			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 麴蓋			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 仕込み樽			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 櫛			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 すくい			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 ならし棒			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 締木			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 三州釜			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 半役			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 本かすり(桶型)			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
醤油醸造用具 平かすり(角型)			1 点	湯浅町湯浅 個人	平成15年(2003)9月5日	
無形民俗文化財		國津神社三面獅子舞		湯浅町田 國津神社三面獅子保存会	平成13年(2001)3月16日	

令和3年4月1日現在

## 2. 湯浅町内の文化遺産の特徴

文化遺産リストの整理で使用した区分ごとに、湯浅町に所在する文化遺産の特徴を整理する。

### 〔歴史を考える上で大切なもの〕

#### 《建造物》

湯浅町では、醤油醸造で繁栄した旧市街地を有し、近年における大規模な災害や戦災による被害を受けてこなかったこともあり、築50年を経過している歴史的建造物とされるような民家が多く残されている。これらの中には、旧市街地を通る熊野古道沿いにある江戸末期に遡ると思われる立石茶屋（旧堀田茶屋）や、近年では駄菓子屋として地域に親しまれ銅板で仕上げた壁が特徴的な町家、湯浅駅旧駅舎や、旧湯浅信用金庫として建てられた近代建築など、伝建地区の範囲外にも、市街地の景観形成に重要な役割を果たしているものも多くある。歴史的建造物悉皆調査では、1,505件の歴史的建造物が確認されたが、これらは旧市街地だけではなく、周辺の農漁村集落にも所在していることがわかっている。

寺社建築については、室町時代末期の極楽寺表門を除けば、17世紀以降のものである。既往調査で詳細に調査されているものについては、文化財指定等による保護措置が比較的進んでいる。

建造物においては、いわゆる民家建築が多く残されていることが特徴と言える。

#### 《絵画・彫刻・工芸品》

絵画は、寺院が所蔵するものが湯浅町誌で多く取り上げられている。多くは近世の仏画であるが、寺院にゆかりの江戸末期を中心とした文人たちの作品もあり注目される。個人宅から、このような文人たちの作品と思われる絵画が確認されることもあるが、状況を整理されているものは少ない。

彫刻は寺院の仏像等が主である。絵画と同様、近世の作品が大半を占めるが、施無畏寺や勝楽寺等の近世より古い歴史を持つ寺院には、中世以前の作品も伝来する。深専寺では、伝大日如来坐像が中世の仏像として近年紹介された。本来別のものであった頭部と体部を繋いでいるが、平安末期から鎌倉初期の作品とみられ、近隣の寺院に伝わる同時期の仏像と作風の類似性が指摘されている。中世の仏像彫刻は、湯浅党に関わりのある造像であると推測されている。



写真14 銅板で仕上げた壁が特徴的な町家



写真15 旧湯浅信用金庫



写真16 深専寺 伝大日如来坐像



工芸品の区分では、文化遺産の把握があまり進んでおらず、寺社の宗教関係の用具や刀剣が少数把握されている。

この区分の文化遺産については、主に寺院が所有するものが多い。未指定の文化遺産であっても、例えば、勝楽寺には、臨時全国宝物取調局による明治24年（1891）の鑑査状がある八祖大師画像や、重要文化財に指定されている仏像群と同時期と思われる未指定の仏像等、調査や評価が望まれるものが存在する。その他、近世初頭にかけて成立した湯浅の旧市街地に所在する寺院をはじめ、各寺院には近世以降の文化遺産が多い。これらは、現在でも信仰の対象とされているものが多いといえる。



写真17 勝楽寺 八祖大師画像（不空像）

### 《古文書等》

古文書等については、寺社に伝来する、その由来や歴史を示すような資料が多くある。中でも、施無畏寺には、寺の創建に関する資料から、湯浅党との関係を示すもの等があり、重要文化財や県指定文化財となっているものがある。寺社伝来の古文書等は、その寺社の歴史だけでなく、それを取り巻く周辺の情勢をうかがわせる資料として重要である。

個人所蔵では、平成16～17年度に和歌山県立文書館が、民間所在資料保存状況調査を行っており、個人所蔵の古文書について整理がされている。個人宅に伝わっていた古文書等の資料の中には、所蔵が困難になった等の理由により湯浅町教育委員会で引き受けたものもある。個人所蔵の古文書等には、醤油醸造、漁業、製網業等の生業や、近世の地域の体制を示すもの、安政の地震津波の被害の様子を示すようなもの等があり、近世から近代にかけての湯浅の様子を知ることができる資料であると言える。

### 《考古資料》

湯浅町に伝わる考古資料は、天神山古墳の石棺や埴輪などの出土品や、勝楽寺周辺で確認された古瓦等がある。これらは、湯浅町中央公民館が撤去されたのち、湯浅スポーツセンター内で保管されている。湯浅城跡発掘調査等を実施した平成30年度以降の調査により出土した遺物も、考古資料として整理されている。湯浅町における本格的な発掘調査は、詳細な記録の残る過去調査歴は確認できず、したがって考古資料もあまり多くない。

### 《歴史資料》

本計画において、歴史資料として整理されるのは、学校関係の資料群や著名人に関する資料群ということになる。このうち、幕末から明治にかけて活躍した菊池海莊きくちかいそうに関する資料群については、個別に整理されている古文書等や絵画がある他、東京の子孫宅に伝来した資料群があり、この内一部は東京大学史料編纂所に所蔵され、その他の手紙や絵画等の資料は湯浅町に寄贈されることになっている。

### 《遺跡・伝承地》

湯浅町には、熊野古道に関係するものや湯浅党の活躍に関係する遺跡や伝承地がある。熊野古道にまつわる伝承の舞台として把握されている所や、湯浅党の館が置かれていたと伝わる場所等、

明確な所在地がわからない場所を伝承地、寺社や工作物等が伝来する場所、調査等により明確な場所が判明していたり、既に文化財の指定を受けていたりするような所を遺跡として整理している。

町誌や、郷土史家のまとめた資料には、熊野古道に関する伝承が多くとりあげられている。古くから熊野古道が地域の人々に親しまれていたことを物語ることである。しかしながら、これらの中には、吉川地区の<sup>ぎょうじゃいし</sup>行者石や湯浅地区の月見石など、伝承を伝える物が本来あった場所から移動しているものもあり、伝承地があいまいになっている所もある。また、湯浅党に関連する館があったとされる場所

についても、発掘調査等による正確な場所の把握がされていない。

その他、城跡や寺社、<sup>こへきろう</sup>古碧楼跡（広屋旅館跡）等の歴史の舞台や、菊池海荘屋敷跡等の著名な人物の邸宅等がある。

### 《石造物》

町内に点在する「お地藏さん」や板碑、宝篋印塔等の石造物については、郷土史家による悉皆的な調査が昭和55年（1980）に行われており、詳細な状況が明らかとなっている。湯浅党に関連する中世の石造物として、康永3年（1344）の明恵紀州遺跡の西白上、東白上の卒塔婆や、観応2年（1351）とされる施無畏寺宝篋印塔があげられる他、紀年銘のある最も古い地藏石仏として永禄8年（1565）の逆川神社地藏堂のものがある。これらの内、数点は文化財指定等を受けているが、その種別は史跡である他に、建造物や工芸品、考古資料と様々である。前述の調査の対象となったものの中には、既に所在が不明になっているものも散見された。石造物は、寺社の境内にある場合を除き、個人や地域の人々の手によって大切に守り継がれてきたものであり、その石造物そのものだけでなく、それを維持する人々の在り方も含めて文化遺産と考えることができる。

### 〔大切な景色・自然〕

#### 《名勝地・景観》

本計画では、湯浅町の大切な景色として、芸術上あるいは鑑賞上の価値が認められる庭園や自然環境を名勝地として、地域の歴史文化を背景にした特徴を示すものを景観として整理している。名勝地については、文化財指定等がされている文化遺産はなく、特定されるものは把握されていない。広大な境内を持つ寺院や敷地に余裕がある個人宅等、本格的な庭



写真18 行者石



写真19 逆川神社 地藏石仏



写真20 栖原の漁村景観

園を備えることができる場所が少ないこと、町域が狭小であり鑑賞上の価値を認めるほどの自然環境が存在し難いということが言える。景観としては、農業や漁業などの生業を背景にした山や海等の自然と集落景観が一体となっている景観や、醸造業を背景とした伝建地区をはじめとする旧市街地の景観、熊野古道の賑わいを伝える道町の景観等が考えられる。

### 《動物・植物・地質鉱物》

深専寺の境内にあった、ほるとのきの老木は、平賀源内の著書にも登場する名木で県天然記念物に指定されていたが、惜しくも枯死し、平成19年(2007)に指定解除されている。

樹木については町誌にいくつかの樹木が取り上げられているが、現存の確認や樹齢等の詳細な調査がなされておらず、未把握の状況に近い。また、植物以外のいわゆる天然記念物については未調査であり、文化遺産と考えることができるものが存在するかどうか不明といわざるをえない。

関連するものとして、湯浅町で採集される動植物の化石類を取り上げておく。嘉永4年(1851)の『紀伊国名所図会』の湯浅荘の項に「木葉石このはいし」が図版入りで掲載されている。近世から、湯浅付近では化石がよく見つかったことがわかる。アンモナイト等の貝や、海の生き物、植物などの化石がよくみついている。近年、和歌山県では唯一(令和3年3月時点)の恐竜の化石が発見されている。平成19年(2007)には、肉食恐竜(カルノサウルス類?)の歯の化石が、そして平成30年(2018)には同じく魚食性恐竜のスピノサウルス類の歯の化石が、湯浅町で発見された。いずれも、およそ1億3000万年前の陸地から汽水域にかけての地層(湯浅層)のもので、大地の歴史を知る意味でも貴重な発見である。これらの標本は、いずれも和歌山県立自然博物館にて保存、展示されている。今後、地学的な調査や研究が進むと、さらなる化石をはじめとした新知見の発見が期待できるとして注目されている。

### 〔人々の生活を語るもの〕

#### 《民俗文化財(有形・無形)》

有形の民俗文化財は、醤油醸造に関連するものが中心となる。町指定文化財が含まれる角長の醤油醸造用具は、醤油醸造の一連の工程を概ね理解できる資料群である。また、醤油醸造に欠かせない麴の製造を行っていた津浦家に伝来する麴製造関連資料群や、醤油醸造業に関する一部の用具と醸造家の生活に関する資料が残る栖原家(フジイチ)旧蔵資料群もある。しかしながら、醤油醸造家が数多くいた湯浅の歴史を考えると、さらに未把握の資料群が存在する可能性があるともいえる。

また、製網業をはじめ、農漁業やその他の生業に関する民俗文化財は、多くが個人宅に所蔵されたままとなっていると考えられ、近世以降の人口集中地であった湯浅の歴史を考えると、有



写真21 『紀伊国名所図会』木葉石



写真22 スピノサウルス化石

形の民俗文化財は多く存在すると思われる、ということが出来る。

無形の民俗文化財としては、地域が一体となって執り行われる神社の祭礼や、その中で演じられる三面獅子が知られている。三面獅子はオニとワニ、それに魔物である獅子が登場する、周辺地域で見られる形態の芸能で、湯浅町内の神社の中でも所作が異なる。この他、伝統的な漁法である四つ手網漁が継承されている広川河口のシロウオ漁が知られている。

### 〔地域に伝わる特色あるもの〕

#### 《食文化》

湯浅町は、醤油発祥の地であり、みかん等の柑橘類に代表される農業や、漁業などの生業が歴史的にも盛んであった地域である。京や大坂に近い距離にありながらも、紀伊半島という険しい自然環境の中にあつて、この近辺では地域ごとに特色のある生活文化が営まれてきたということを踏まえると、湯浅町の人々が当然のように伝えてきた郷土料理や食に関する風習、独特の製造・調理方法等の食文化は、貴重な文化遺産であると言える。しかしながら、これらに関する詳細な調査は実施されておらず、具体的な状況が把握されていない。現在ではすでに消滅してしまっている食文化については、古老からの聞き取り等による調査も必要である。



写真 23 角長職人蔵の民俗資料



写真 24 ナレズシ

#### 《民話・習俗・民謡・技芸》

民話や民謡、地域独特の年中行事や地域の共同慣行等の習俗、地域特有の技術や日本文化を体現する華道や茶道等の技芸といった類のものは、地域内での残存の状況や、過去の状況の調査等を行われたことがない。食文化と同様、これらについても、時が進むにつれ消滅していく傾向にあることに留意しなければならない。

## 3. 日本遺産 「最初の一滴」 醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅

平成 29 年（2017）4 月、『「最初の一滴」 醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅』が地域型日本遺産として文化庁の認定を受けた。鎌倉時代にもたらされた金山寺味噌の製造過程で生じる液汁に着目した湯浅の人々が生み出した調味料「醤油」発祥の歴史と、それを伝える町並みや技術、道具、そこに生きる人々の生活や信仰、食文化などを物語るストーリーが評価されたものである。日本遺産では、24 件の文化財を構成文化財としている。この中には、醤油を地元の実産物にかけて食する「しらす丼」や、祭礼時に人々の手で作られ食される郷土食「ナレズシ」などの食文化も含まれている。

## ストーリーの概要

醤油の起源は、遥か中世の時代、中国に渡り修行を積んだ禅僧が伝えた特別な味噌に始まる。この味噌の桶に溜まった汁に紀州湯浅の人々が工夫を重ね、生まれたのが現在の醤油であるという。

醤油の醸造業で栄えた町並みには、重厚な瓦葺の屋根と繊細な格子が印象的な町家や、白壁の土蔵が建ち並ぶ。通りや小路を歩けば、老舗醸造家から漂ってくる醤油の芳香が鼻をくすぐり、醤油造りの歴史と伝統が、形、香り、味わいとなって人々の暮らしの中に生き続けている。

### 【ストーリーの構成文化財一覧】

番号	文化財の名称	ストーリーの中の位置づけ
1	湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区	醤油・金山寺味噌醸造で発展してきた湯浅の町並みには、近世から近代にかけて建築された醸造業に関わる町家や土蔵が建ち並び、昔ながらの醤油造りの香りが今も漂う。
2	加納家（角長）	醤油醸造の老舗で、江戸末期に建てられた主屋や仕込蔵など醸造関連の建築群が軒を連ね、現在も現役の施設として稼働している。
3	醤油醸造用具	角長で長年使用されてきた醤油醸造用具の数々で、現役で使用されているものも含み、古くからの製造工程を今に伝える。
4	醤油の製造技術	大豆と小麦に麴を混ぜて4日間寝かしたあと塩水を入れて、仕込桶で1年から1年半の間攪拌しながら寝かせ、出来た諸味を絞り、和釜で松の薪を燃料にして火入れを行う。
5	津浦家（旧内伝麴店）	醤油や金山寺味噌の製造に欠かせない原料である麴の製造販売業を営んでいた。
6	麴製造関連用具	津浦家（内伝麴店）で使用されていた麴製造関連用具。
7	旧栖原家	フジイチの屋号で醤油の製造販売業を営んでいた醸造家。
8	戸津井家（旧戸津井醤油醸造場）	江戸文化年間創業のマルタケの屋号を持つ醤油醸造家。
9	だいせんぼり 大仙堀	往時は醤油を積み出した内港で、一名を「しょうゆ堀」という。石積み護岸に醤油蔵が建ち並ぶ。
10	おおふねいっそうだいいいそうでん 「大船一艘代々相伝」書状	醤油醸造家であった赤桐家に代々伝わっていた書状。
11	北村家（大坂屋三右衛門店・玉井醬本舗）	江戸時代を通して金山寺味噌の製造を一子相伝で受け継いできた老舗。湯浅に残る最古級の町家建築で、現在も、江戸初期の創業当時の地で製造販売を行っている。
12	太田家（太田久助吟製）	江戸末期から続く醤油醸造家の町家や土蔵が通りに面して建つ。
13	金山寺味噌の製造技術	大豆、米、大麦に塩と麴を混ぜ、瓜や茄子、生姜、紫蘇といった野菜を漬け込んで作る。
14	けんこく 顯國神社（本殿・祝詞殿・拝殿、手水鉢）	醤油醸造家たちが、商売繁盛や日々の暮らしの安寧を祈願した湯浅の総鎮守。江戸時代、房総に渡った当社の産子たちから手水鉢が寄進されている。
15	顯國神社の祭礼（顯國神社の三面獅子）	毎年10月中旬に行われる湯浅祭では民俗芸能の三面獅子が奉納され、神輿渡御や騎馬武者行列が、醤油醸造業で栄えた町並みを練り歩く。
16	ナレズシ	顯國神社の秋祭りで食べられるスシ。
17	熊野街道道標	かつての熊野への参詣道は、江戸時代には街道として整備され、巡礼者や醤油問屋の商人など多くの旅人が行き交った。「紀伊国名所図会」にも描かれている立石（たていし）と呼ばれる道標が、今も往來を見守っている。
18	じんせんじ 深専寺（本堂・惣門・庫裡及び玄関・書院）	熊野古道沿いにある寺院で、醤油醸造家をはじめとする湯浅の人々に信仰されてきた。
19	湯浅駅旧駅舎	鉄道を中心とした陸路での移送手段に変わる時代の中で、醤油の商品や原材料の輸送と商人の移動など、新たな玄関口として利用された。国鉄開通時の駅舎が残されている。
20	じんぷろ 甚風呂（歴史民俗資料館）	小路に建つ銭湯の戒湯は、早い時間帯には早朝に漁に出る漁民たちが、次に仕事を終えた醤油屋の使用人が、最後は家庭を支える女衆が利用した。地域住民の憩いの場として「甚風呂」の愛称で親しまれた。
21	しらす丼	湯浅湾で水揚げされたシラスをご飯の上に乗せ、醤油をかけて食す郷土料理。
22	ちやがゆ 茶粥	米をほうじ茶で炊き、冬は温かいまま、夏は冷やして金山寺味噌でいただく。
23	栖原家旧蔵民俗資料群	栖原家（フジイチ）で使用されていた醤油醸造家の生業や生活の様子を示す民俗資料群。
24	湯浅図屏風（紀州湯浅町図）	明治初期の湯浅の町並みや浜の様子を描いた絵画。醤油醸造で繁栄する湯浅の町並みや、多数の船によって醤油が運び出される様子が見て取れる。

